琉球弧世界遺産フォーラム

News Letter

2014・6月 vol.1

琉球弧世界遺産学会（通称：琉球弧世界遺産フォーラム）設立総会開催しました

2014 年 5 月 24 日（土）沖縄大学同窓会館にて琉球弧世界遺産学会の設立総会が開催されました。議事録を元にしながら当日の模様を再現しました。

緒方：皆さん、こんにちは。本日は琉球弧世界遺産学会の設立総会ということで、少数精鋭の 20 人ぐらいで（笑い）、やるということでございます。それでは簡単に学会を設立するまでの経緯についてお話したいと思います。2000 年に琉球王国のグスクおよび関連遺産郡が世界遺産に登録されました。しかし世界の宝である遺産群が足元にあることを、沖縄県民が知悉しているとはいえません。そこで私たち有志一同は世界遺産研究班を結成し、沖縄大学地域研究所を中心に共同研究を続けてきました。

－以下、当日配布資料読み上げ　p.4 参照－

それでは開会のご挨拶といたしまして、長年にわたり世界遺産登録に尽力し、我々のグループを率いてこられました當眞嗣一先生よりご挨拶をよろしくお願いいたします。

當眞：皆さん、こんにちは。今日の総会ですが、直前の新聞には載ってなかったものですから、お集まりも少ないんですけれども、沖縄のことわざに「ぐまく生んでまぎく育てる」という言葉もあります。小さく生まれたけれども、成長しながら大きく育てていくということなんです。私たちが今から誕生させようとしている「琉球弧世界遺産学会」も、小さく生まれたけれども、大きく育つんじゃないかと思います。今日は設立総会ですので、素晴しい会が生まれることを期待して、皆さんと一緒にいろいろと議論をしながら素晴しい会が設立できればと思います。設立総会の成功を期待しております。

－以下、議長（當眞）選出、規約案解説（花井）そして承認まで省略－

當眞：琉球弧世界遺産学会としては、世界遺産に登録された文化遺産だけでなく、地域にあるいろいろな文化財や自然も視野に入れながらやっていくという意味もあるのでしょうか。

花井:世界遺産の仕組みそのものはヨーロッパから持ち込まれました。Heritage（遺産）と Property（資産）という言葉を使っています。沖縄の場合、９つの Property（資産）から成立し、世界文化遺産はこれをあわせて１つの Heritage（遺産）となっている。そういう意味を持たせるために「遺産」と「資産」という使い分けをしました。

緒方：第２条のところに「本フォーラムの事務局は特定非営利活動法人 文化経済フォーラムに置く」とあります。これは元をたどれば文化経済学会です。イギリスのラスキンの流れを汲んでいますが、学会では堅いのでフォーラムにしました。会場に理事長の具志堅勝也さんがお見えになっておりますので、お話をいただければと思います。

具志堅：文化経済フォーラムは、地方の映像祭で提供した沖縄・奄美を実施したいという話があり、その受け皿として立ち上げました。今年も 11 月に名桜大学にて２回目の映像祭を企画しております。また、鳩山由紀夫さんが立ち上げました「東アジア共同体研究所」の琉球・沖縄センターと提携し、この映像祭を企画しております。

緒方：続いては平成 26 年度の活動計画案でございます。高良さんお願いいたします。

高良:みなさん、こんにちは。今年度の活動計画ですが、講座「世界遺産概論」が沖縄大学の授業として、花井先生を中心に始まっております。その次に「世界遺産アカデミー」（毎日新聞社内に設置）の研究員が６月４日に来沖を予定しております。当フォーラムとの交流会等が提案なされるかと思いますので、ご協力をお願いしたいと思います。それから､名桜大学にて市民講座「世界遺産とは何か（仮）」を７月 19 日、26 日に実施、新垣裕治先生が担当することになっております。次に世界遺産アカデミー、世界遺産クラブメンバーが７月 24 日～ 27 日に来沖する予定。ヤマトの側からの講師等がいらっしゃる場合には、また懇談会等の呼びかけがあるかと思われます。次に検定に向けた奄美・琉球世界遺産検定の事前講習会が予定されております。この開催地域は拡大しておりまして、東京、奄美、名桜大学、沖縄大学、石垣島で予定。今年は検定を当フォーラムで引き受けて、「沖縄の歴史」「奄美・琉球世界遺産」「全国版の世界遺産」の３検定を実施する計画になっております。

琉球弧世界遺産フォーラムですが、偶数月にニューズレターを発行する予定です。そして奇数月に定例研究会を開催いたします。以上のことはすでに進んでいるもので、予定としては関連研究の受託、地方自治体への提言のまとめ、琉球弧世界遺産ツアーの実施。去年やった事例（沖縄巡礼の道、東御廻りコースなど）を参考に。まだ確定ではないが､高等学校から講師派遣の依頼があり､対応していきたいと思います。あとは会場の皆様より提案があれば、運営委員会で引き受けたいと考えております。

質問者：９月 21 日に３検定実施とございますが、これは続けてやるのか、それとも問題をまとめてやるということですか。

緒方:一日ですべて行います。午前中に｢沖縄歴史検定｣と｢奄美･琉球世界遺産検定｣を１時間づつ行います。午後は「世界遺産検定２級」と「３級」を実施します。全国的な世界遺産の検定で、27 ヶ所やっている世界遺産検定は４級～１級、マイスターまでの５種類があり、１級ともなると JTB への内定実績もあり、就職間違いなしなんです（笑）。検定１級を取得し、旅行社に何年か勤めたりすると、世界遺産スペシャリストとなります。全国で 84 人しか認定を受けていないのですが、その第一歩となります。

－三号議案は平成 26 年度収支予算案について（略）－

質問者：ツアー実施について。沖縄世界遺産めぐりで 10,000×20 名のツアーの内容はどういったものなのか。10,000 円は高いという感触。

緒方：過去に沖縄大学で実施した際に学生向けに実施した際の費用です。バス代やバーベキューや宿泊代なども織り込んだものです。これからは旅行社などと提携し、東京から来た観光客にタイアップして世界遺産ツアーを提供するような組み合わせも考えています。今まで沖縄県内に向けて４～ 5,000 円で組まれたツアーは、ことごとく失敗しています。ですので県外の方に向けてポイントを絞り解説しつつ、やるのがよいのではないでしょうか。（NPO アジアクラブ主催の）當眞先生（のグスク巡りなど）はとても良い評判でした。

緒方：（新役員について）会長は當眞先生、副会長は花井先生、運営委員は高良さん、盛本さん、新垣先生、奄美にいらっしゃる花井恒三さんとなります。私が事務局担当となり、監事を西江先生、池宮照子さんにお願いしたいと思います。奄美側の人員が足りないと思うので７月に行った際に相談してこようと思います。それでは新役員のご挨拶をいただければ幸いです。

當眞：琉球弧世界遺産学会はめでたく誕生いたしました。会長を引き受けることになりましたけれども、皆さんと手を取り合って一所懸命に会を盛り上げ、次年度は今年度の数倍に会員を増やして行きたいと思います。頑張っていきましょう。

花井：この学会の取り組みについてお話したいと思います。
2012 年に京都で世界遺産 40 周年を迎えた世界会議が行われました。このときにテーマとなったのが「コミュニティ」でした。そして世界遺産の周辺地域に暮らしてる人たちにもうまく活用してもらおうというのが会議の趣旨でした。これが現在にもつながっているものになります。緒方先生と奥住さんも出席されていて、沖縄の特性を活かそうということになりました。文化遺産と（将来、登録されるかもしれない）自然遺産が一つの県に並存するというのは沖縄県だけなのです。

高良：私はもともと高校で化学を教えておりました。當眞嗣一さんが沖縄県の文化課長をしている頃に県庁で琉球王国のグスクおよび関連遺産群の世界遺産登録にたちあいました。私は主に文化や歴史のほうから琉球弧の世界遺産を普及させ、保存活動に役立つような事業を担いたいなと考えております。また理科人として自然を愛する気持ちから、自然遺産登録についても支えられたらな、と考えております。

盛本：私も高良さんからもお話がありましたように、2000 年の世界遺産登録の時に立ち会いました。子々孫々に継いで行くために、文化遺産の総合的把握といいまして、世界遺産の拠点と拠点をつなぐ街道などを保護し活用するという事業に努めております。今後はそういう絡みも含めて、今後この学会が末永く発展していければと思っております。

新垣：これまで花井先生が理事長をつとめられている「沖縄エコツーリズム推進協議会」でご一緒してきました。世界遺産が指定されることで見直されるエコツーリズムの役割が大きいと思います。今回の設立はタイミングとしても良い、国頭村では世界遺産をどうしていくのかという動きがある。現在、国頭村から学識者として呼ばれております。

緒方:思い立ったが吉日という思いで、何でもかんでもやってみようという思いで立ち上げました。ただ、今日へ至るまでは沖縄大学にて集中講義があったり、世界遺産概論があったりと、５、６年はかかっております。まだ人は少ないですが、会員 100 人ぐらいを目指し、いろいろなことに取り組もうかと思っております。

西江:當眞先生とは伊平屋にあるウッカグスクなどの研究を通じて知り合い、参加させていただきました。監事ということで恐縮なのですが（笑い)、よろしくお願いします。

池宮：去年、世界遺産史跡めぐりの本の編集で緒方先生のお手伝いをさせていただきました。このような学会に県民の一人として参加したいという思いで、本日やってきました。

（以下はゲストの唄者　比嘉光龍（ふぃじゃ・ばいろん）氏による楽しいおしゃべり）

比嘉：「かじゃでぃふー」「くいぬ花」
琉球諸語についてお話させてください。獨協大学のパトリック・ハインリッヒ准教授（ドイツ人）と琉球大学宮良信祥と一緒に作成しました。
－配布資料の地図　p. 4 参照－

奄美語、国頭語、沖縄語、宮古後、八重山語、与那国語の 6 つで成り立っている。「ありがとう」一つとっても「ありがたさまりょーた（奄美)」「とぉーとぅがなしー（国頭、与論)」「にふぇーでーびる（沖縄)」「たんでぃがたんでぃー（宮古)」「にふぁいゆー（八重山)」「ふがらっさーゆー（与那国)」とこんなにも違う。これまでは方言という言い方をしてきたものは、言語として取り扱ってほしいと思います。
・・以下、会場とやりとりしながら笑いのうちに終了。

琉球弧世界遺産学会設立までの経緯

「琉球王国のグスクおよび関連遺産群」が、世界遺産に登録されたのが 2000 年。世界の宝である遺産群が足元にあることを、沖縄県民が知悉しているとは言えません。そこで我々有志一同は、世界遺産研究班を結成し、沖縄大学地域研究所を中心に共同研究を続けてきました。また市民向けの土曜教養講座を数回開催しその成果として「世界遺産・聖地巡り」（琉球・奄美・熊野・サンティアゴ）を発刊。

学生向けには集中講義「沖縄・世界遺産巡り」、のちに前期講義として「世界遺産概論」を実施してきました。

さらに沖縄の歴史についての普及を図るため、高校生向けに行われていた「沖縄歴史検定」の運営を引き受けることとなりました。これは地元の高校教師ブループが始めたものです。我々もこれにならい上記検定と同日に「沖縄・世界遺産巡り検定」を実施、昨年からは「奄美・琉球世界遺産検定」と名称を変更しています。

地元の歴史や貴重な遺産群への理解なくして健全な郷土愛も誇りも生まれません。昨年の新聞のアンケートでは日本各地の世界遺産と比べて認知度が一番低いという結果が伝えられました。一方で奄美・琉球の自然が世界遺産候補として挙がっています。各国からの世界遺産の申請は文化遺産・自然遺産それぞれ上限一件に制限されています。奄美・琉球の自然が世界遺産登録されるのは間近と見て良いでしょう。実現すれば沖縄県は文化・自然の二つの世界遺産を持つ日本では唯一の県となります（鹿児島は屋久島と奄美の二つの自然遺産）。

小中高大学生から一般市民に至るまで県民はこぞって郷土にある世界の宝について関心を持ち、おおいに誇りに思ってほしいと願います。今年からは NPO 世界遺産アカデミーの協賛を得て「世界遺産検定」（文科省後援事業）と同日（9 月 21 日）に上記の 2 検定と合わせ三つの検定を実施することも決まっています。我々も事前講習をふくめ各地で知識普及のためにまい進する所存です。

本学会は 3 年前に世界遺産研究班の當眞嗣一氏より提案されました。その後、研究班メンバーの花井、高良、盛本、新垣、緒方と共に何度も会議を開き、今回の設立に至ったものです。

大きな被害と犠牲者を出した第二次世界大戦を教訓にユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が発足しました。ユネスコ憲章の前文には「戦争は人の心の中に生まれるものだから、人の心の中にこそ、平和のとりでを築かなければならない」とあります。

世界遺産もそうした「平和のとりで」の一つです。

－比嘉光龍氏配布資料より－

世界遺産と東（あがり）御廻り（うまーい）

盛本　勲

１．はじめに

東（あがり）御廻り（うまーい）は、今帰仁（なちじん）上り（ぬぶい）とならんで、琉球民族の祖先とされるアマミキヨ伝説に関わるとされる聖地や旧跡等を巡拝する巡拝行事の一つである。両巡拝とも世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産である斎場御嶽（せーふぁーうたき）と今帰仁城跡（なきじんじょうあと）と関連した巡拝である点では類似する。

世界遺産の構成資産や史跡等の拠点的な存在と近隣もしくは巡拝ルート等に所在する聖地や旧跡等をリンクさせて捉えていく必要性というのは、文化庁も推奨している「文化財の総合的把握」という点からして重要であり、今後においても積極的に取り組んでいかなければならないものと考えている。

先頃、「ＮＰＯ法人　アジアクラブ」主催の文化講座「現地巡見で知る沖縄の歴史・自然と世界遺産」の第４回講座の講師として、2014 年（平成 26）年１月 18 日（土）に、標題のテーマで参加者を案内・講義を行った。

以下に、当日の講義レジュメをもとに巡見地の概要について記す。

２．巡見地の概要

①御殿山・浜の御嶽（所在地：与那原町与那原）

去る大戦で破壊を受け、本来所在していた場所に町の青少年広場の整備が行われたため、元の場所から現在地に若干移動しているようである。

御嶽の神名は「アマオレツカサ」（『琉球国由来記』巻十三（1713））と記され、天女が天降りした場所とされる。

また、聞得大君の東御廻りの際、佐敷・知念・玉城の途次に、当該御嶽、与那原エーガー（親川）での儀式が行われた。このため、尚（向）氏だけは東御廻りの際に「浜の御嶽」での祈願を欠かせなかった場所である。

②与那原エーガー（親川・拝井泉）（所在地：与那原町与那原）

聞（きこ）得（え）大君（おおきみ）の「御新下り」の際にお水撫でを行った霊泉である。『琉球國由来記』には、往時の儀礼は与那原ノロの御崇（おたか）べのなか、トシナフリの女性の汲んだエーガー（親川）の水を脇の阿武志良禮（あむしられ）が受け取って、聞得大君に捧げ、聞得大君がこれを御手で受けて御水撫でを行ったことが伝えられる。

拝井泉は、現在町立綱曳資料館敷地内に所在しているが、戦前は現在地も含めた約 300 坪を有し、泉の周辺は鬱蒼とした樹林地となっていた。

往時の敷地の北側には遊び庭（なー）があり、『御新下り日記』によると、遊び庭には大木のコバテイシがあり、御新下りの聞得大君の御水撫での儀礼の際には与那原ノロやトシナフリの女性が当該コバテイシの下で控えていたことが記されている。

カー（泉）口は元来、立派な石積みで囲われていたようであるが、去る大戦で破壊を受け、現在のものは戦後になって修復されたもののようである。

写真1　与那原エーガー近景（筆者撮影）

③佐敷上城之殿（所在地：南城市佐敷）

佐敷の標高 150m前後の台地が囲う馬蹄形状の標高 50mに形成された、佐敷上グスクに所在する拝所である。上グスクは『琉球國由来記』に「上城之嶽」と記され、佐敷小按司（尚巴志）の居城であったと伝承される。御嶽に祀られた神は「スデツカサノ御イベ」と「若司ノ御イベ」の二神があり、年浴とミヤタテの行事の日に佐敷ノロが中心となって、花米や神酒等を供えて祀りごとを行っていると記されている。

グスク内には、佐敷ノロ殿内、内原の殿（上城の殿）、カマド跡、つきしろの宮、イベ等がある。
当該殿で最も重要なイベは、尚巴志没後500年を記念して、門中によって1938（昭和13）に建立された「つきしろの宮」（第一尚氏王統の佐銘川大主、尚思紹、尚巴志、尚忠王、尚思達王、尚金福王、尚泰久王、尚徳王の８神を合祀）の背後のこんもりとした雑木内に香炉のみが所在する拝所である。

④斎場御嶽（所在地：南城市知念）
国指定史跡であり、世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産の一つにもなっている。
当該御嶽は沖縄最高の霊地として、「阿摩美久」が創ったとされる七嶽の一つとされ、御嶽内の御門口、三庫理からは東方の洋上に浮かぶ久高島が望見できる。「東御廻り」の代表的な拝所であるとともに、王国時代には琉球の最高神女の就任式である「御新下り」が行われた聖地でもある。
御嶽の正確な創建年代は不明であるが、王府の正史である『中山世鑑』には琉球の開闢神「アマミク」が創建した御嶽の一つとされ、15 世紀前半には国王が斎場御嶽を巡幸していることが関連文献等から伺える。
御嶽内には大庫理、寄満、三庫理、チョウノハナと証されている拝所が存在し、これらは石畳の参道で結ばれている。古くは男子禁制の聖域で、男子は御門口（御嶽の門）から先へは立ち入ることができなかった。

写真2　三庫理より久高島を遙拝する神人
（沖縄県教育委員会提供）

⑤受水・走水（所在地：南城市玉城新原）
受け水と出し水の二つの泉口を併せ呼んだ名称で、湧水に接するミフーダやウェーダ（親田）と称される田圃が稲作発祥伝説の主役となっている。神名は「ホリスマスカ君御イベ」と記され、毎年 10 月の御祈願、９月麦種子、12 月結願、３月と８月の４度御物参の際、また隔年の４月の初穂の儀礼（ミシキョマ）の際、首里王府から大勢頭部や勢頭、當職からの使者でもって参拝するとともに、干ばつの際には国王自ら雨乞いの儀式を行なったと伝承される。

⑥浜川御嶽（所在地：南城市玉城新原）
玉城ノロのお嵩べ所として、王府も「東御廻り」を行った重要な聖地で、県内各地から東御廻りのほか、旧正月や旧８月等をはじめ、「浜川拝み」、「浜川ウビー撫ディ」と称して、年中参拝者が絶えない。
元来、御嶽は潮バナチカサと称される海岸汀線にあったが、満潮時になると波が打ち寄せるため、危険であるということから、近世になって吉田下知役という役人の指示で現在地に移動したと伝えられる。
御嶽には神名「ヤハラヅカサ潮バナチカサノ御イベ」が祀られているとされ、伝承によると、その昔琉球民族の祖先であるアマミキヨがウフアガリジマから渡ってきて、ヤハラヂカサに第一歩を証し、浜川の清水で疲れを癒し、付近の岩穴で仮住まいをした後、ミントゥングスクに移り、安住の地を求めたと伝えられる。

⑦ヤハラヂカサ（所在地：南城市玉城新原）
御嶽名の由来は、海路の日和が「やわらか」に鎮まるようにとの願いから付けられたのであろうか？と考えられている。
潮間帯下の岩礁に所在するため、干潮時には直方体の香炉が露出。しかし、満潮時になると隠れるため、香炉の脇に建てられたコンクリート製の標柱が目印となっている。
御嶽は、ウフアガリジマ（大東島、ニライカナイ）から来琉したと伝承される琉球民族の祖先と伝承されるアマミキヨが最初に辿りついた地と伝承され、御嶽から東方の海に向かって祈願。同一方向にはアドキ島やコマカ島を結んで久高島が望見できる。王国時代には国王と聞得大君も４月の初穂儀礼（ミシキョマ）の際に参詣した。現今でも旧正月７日や旧８月等になると、県内各地から多くの参拝者が来訪する。

写真3　ヤハラヂカサ近景（筆者撮影）：
左手に望める島はアドキ島

⑧知念グスク（所在地：南城市知念）

知念集落背後の丘陵上に立地するグスクで、『おもろさうし』に神が初めて天降りしたグスク、アマミキヨが初めて神に祈ったグスクと記述されている。

グスクは、野面積みの古グスク（知念森グスク）と、切石積みで拱門の表裏門を有したグスク（知念グスク）より成る。両グスク間の断崖中腹に石で囲われた御嶽「友利之嶽（とむいぬたき）」が所在するが、当該御嶽が東御廻りの巡拝地となっている。当該御嶽は『琉球國由来記』にも記載がみられ、王府からの御使の御祈願があったと伝承される。

また、かつては男子禁制の聖域で、1761（尚穆王 10）に知念グスク内に間切番所が移されるが、この段階においても禁制は守られていたことが伝えられる。

写真4　知念大川近景（筆者撮影）

⑨知念大川（所在地：南城市知念）

拝井泉である。当該井泉については『中山世鑑』に「稲ヲバ，知念大川の後，又玉城ヲケミゾニゾ藝給」とあり、「受水・走水」と同様、沖縄での稲作の発祥の地と伝承される。

井泉の背後はウカハル（内川原）で、稲作が初めて栽培された場所として、東御廻りの拝所となっている。

2014 年度

9/21(日)実施!

奄美・琉球世界遺産検定

文部科学省後援

世界遺産検定 SEKAKEN　沖縄歴史検定

試験日時　９月２１日（日）

試験会場　今年度は５会場で３検定を実施します。

- 奄美　ＡｉＡｉ広場（奄美市名瀬末広町 14-10）
- 名護　名桜大学総合研究所（名護市字為又 1220-1）
- 那覇　沖縄大学 2 号館 306 教室（那覇市国場 555）
- 石垣　石垣ケーブルテレビ　ＩＣＴ文化ホール（石垣市登野城 9-4）
- 東京　毎日新聞社　世界遺産アカデミー会議室（千代田区一ツ橋 1-1-1）

検定料　１６００円～２０００円

申込締切　９月１５日（月）

検定内容　有名な世界遺産や奄美・琉球の自然文化を含め全 50 問出題。
＊得点に応じて認定証発行。
１級…90 点以上、２級…78 ～ 88 点、
３級…64 ～ 76 点

主催：琉球弧世界遺産学会（琉球弧世界遺産フォーラム）
共催：NPO 法人文化経済フォーラム
協賛（申請中）：名桜大学、沖縄大学、石垣ケーブルテレビ、奄美テレビ、NPO 法人世界遺産アカデミー、NPO 法人沖縄エコツーリズム推進協議会、NPO 法人アジアクラブ
後援（申請中）：沖縄県、那覇市、名護市、石垣、奄美市、琉球新報社、沖縄タイムス社

ないちゃーが行く東廻り

遠藤　礼子

沖縄が好き、何が好きって・・・。海、独特の行事、音楽、人間、食べ物、あげればきりがないけれど、移住してもうすぐ２年。旅行で訪れるようになって、引き寄せられるように沖縄での生活が始まった。観光地巡りは、住んでみると意外にしないもの。それは生活があるからと最近思う。縁あって、この地に住みパワースポット巡りということで参加したこの東廻り。

まず、自宅近くにある御嶽。御嶽は神聖な場所であることは知っている。何が神聖なことになるのか。まず、ないちゃーには理解しがたいことに、すべてのものに神が宿ること。それは、火、水、木、など身近にあるもの。しかし、これらに感謝をするのは沖縄の文化であり、私は尊敬する。その中で、御嶽というものが存在するのだ。ないちゃーからは神社といったところだろうか。祖先崇拝の沖縄には神社仏閣は少ない。皆、自分のゆかりのある御嶽でお祈りをするという。私は、受水、走水で初めて間近に拝む人を見た。何か、わからない言葉で、地面に正座しお祈りをする姿を沖縄らしいと感じた。そして、話しかけられない真剣さを感じる。

今、セーファー御嶽が世界遺産となり、年間の拝礼者は 12 万人にのぼる。実際に、観光者の対応に整備され、以前に訪れた時のような静けさは感じられない。しかし、観光客にとってガイドブックに載るところは時間の許す限り訪れたい。そこで、この御嶽の意味を知るきっかけになるのではないだろうか。もちろん私も、御嶽の雰囲気を感じ両親を沖縄旅行に呼んだ際に、立ち寄っている。東京に戻ってからも、あの三庫理の気持ちの良い風を両親は必ず話す。

さて、この東廻りについて自分の仕事（ホスピス看護師）として振り返る。それは、信じることの大切さだと思う。神に祈ること、そして奇跡を信じること。すべてのことが、意味があるのだと感じる。世の中の移り変わりで、生じる人間のすれ違い。しかし、そこには人を敬う精神が生まれながらに培っている沖縄の人々は、自然に乗り越えていく。東廻りは自然と調和し、祈りを伝えていく伝承文化であると考える。

世界遺産と東御廻り

島袋　千春

「東御廻り」聞いたことはありましたが。実際に何の意味があり廻るのか、ユタが拝みをするために廻るとか、そういう事を聞いたことしかありませんでした。
①園比屋武御嶽→②御殿山→③親川→④馬天御嶽→⑤佐敷グスク→⑥テダ御川→⑦斎場御嶽→⑧知念グスク→⑨知念大川→⑩受水・走水→⑪ヤハラヅカサ→⑫浜川御嶽→⑬ミントングスク→⑭玉城グスクが、コースとなっています。
私は勝手に７か所ぐらいを廻っていくのかと思っていたので、14 ケ所も！！と驚きでした。
沖縄に住みながら沖縄のことを本土からくる観光客よりも何も知らないかもしれない！と思い興味のあることから一つずつ知っていこうと思いました。少しですが、スピリチュアル的なことも書きたいと思います。（略）

親川から次は佐敷上城之殿へ、そこは三山を統一した尚巴志の居城であったと記されています。
私は見えないものが見えたりするのですが、そこは物凄くよそ者を警戒、嫌うような感覚があり、頭が重くなり目が霞むような、あまり気分がよくありませんでした。こういう事を書くのはどうでしょう。と思いながら書いています。
多少そういうものの存在が見えたり感じたりするとういう方は、気をしっかり持ちなるべくは奥まで行かず早めにその場を離れることをお勧めします。
頭や肩が重いまま次は沖縄最高の霊地とされ、琉球の創世神アマミキヨがつくった国始めの七御嶽の一つといわれている斎場御嶽に行きました。（略）

御門口（ウジョウグチ）から入り、大庫理（ウフグーイ）に行きます。そこは最初の拝所です。そこに立っていると「人間はやがて知ることになるだろう」という言葉が入ってきました。方言で来るかと思ったら、標準語でした。
未だに意味を解くことが出来ていませんが、昔は女性だけしか入ることができなかった場所に、今では関係なく沢山の人達が入っています。女性だけしか入ることが許されなかった意味があると思います。そのことと関係があるのか、世界規模のことを言っているのか、深い所にあるのだと思います。
次に寄満（ユインチ）王府用語で「台所」を意味しているそうです。そこは、戦時中の映像が飛び込んできました。砲弾などが飛びかっていたんだろうなと思います。「お新下り」とは関係ないですね。
その後はツキヨダユルとアマダユルの壺、三庫理（サングーイ）へ。それぞれ拝所となっています。サングーイからは久高島が見えました。そこの一部の場所で金色の光が降りてきました。その光を浴びると、重かった頭や首が軽くなり暖かい気持ちになりました。一緒に行った友人にもその場所に立ってもらうと、その日は風も強く寒い日でしたが、そこに立つと暖かいと言っていました。受け入れてもらえたのでしょうか？「ありがとうございます」でした。
そして、「志情きぬ　姿忘ららん　浮世にさみ」という言葉が聞こえてきました。
これもまた、意味を読み解くのは困難ですが、現代の人の在り方姿が変わってしまい悲しく感じているのかな？と私は思っていますが。どうなんでしょう？（略）

斎場御嶽を後にし、次は琉球における稲穂発祥の伝説のある受水・走水へ。
市指定文化財になっています。ちょうど私達が行った時に先祖代々から管理をされている方が田植えの為の準備をしていました。その方で 19 代目になるそうです。受け継がれていくこれも沖縄の文化を感じました。代々管理されている方たちがいるから、私たちが足を運び歴史を知ることができ、感謝が生まれていくんですね。感動しました。（略）

「おもろさうし」には、神が初めて天降りしたグスク、アマミキヨが初めて神に祈ったグスクと記述さているそうです。ここも、かつては男子禁制だったそうです。ここも、警戒心が強い場所の様に感じました。祈りの思いを強く感じる場所でした。静かに見学した方がいいだろうなと思いました。切石積みの門がグスクだなと感じさせられました。

下に降りていくと、「知念大川「チネンウッカー」知念グスクの西側にある泉です。稲の発祥地といわれ、アマミキヨが天から稲を持ち帰り、この地に植えたと伝えられているとのこと。稲の発祥の地は、受水・走水だけだと思っていたのでちょっと驚きました。こういう場所を後世に残し昔のように綺麗な水が湧き出て沢山の稲を育てることができれば、お米のありがたさや自然を壊さない汚さないことの意味が分かるのではないのかとも思いました。
今回、「東御廻り」に参加して更に沖縄の事を知りたいと思いました。自分の身近にある歴史さえわからないことがあるとは、恥ずかしくなりました。これからも、スピリチュアルな観点から、ウチナーンチュとして、後世に伝えていくためにも知識を深めていこうと思います。このような機会を設けて下さりありがとうございました。関わった皆様方に感謝いたします。
また、このような講座があれば是非参加したいし、私がガイドになれるくらいになりたいと思います。

「富岡製糸場と絹産業遺産群」世界遺産へ

佐滝　剛弘

この 6 月、カタールのドーハで開かれたユネスコ世界遺産委員会で、日本で 18 件目の世界遺産が誕生した。近代以降の産業遺産の登録としては、日本で初めてであるとともに、現在も行われている生業（なりわい）に直接かかわる遺産としても初めてのこととなる。

壮麗な建築物のイメージが強い世界遺産とは対極にあるような地味な工場や農家の世界遺産登録は、当初は地元でもかなり懐疑的な眼差しで見られていた。しかし、行政と市民がそれぞれ協力しながら世界遺産の登録運動を行ってきたことや、「東西の文化融合により絹生産の技術革新を成し遂げ、その成果が再び世界へと広がった」という明瞭なストーリーを作り、それに沿った構成資産に絞って登録を進めたことが功を奏して、最近の日本の文化遺産の登録では珍しく、イコモスから大きな注文もつかずに登録に至ったことは、日本の世界遺産史の中でも特筆すべきことであろう。

メディアでは、富岡製糸場ばかりがクローズアップされているが、個人的には「絹産業遺産群」の登録がより重要なことだと感じている。絹産業は、蚕の卵である「蚕種」の生産から始まり、桑を植え、蚕を育て、繭を収穫し、それを製糸工場に持ち込んで生糸にし、さらに生糸を原料に様々な衣料を生産するという、一次産業から三次産業までを包摂するすそ野の広い産業である。製糸場は、その結節点にあたる重要な施設ではあるが、繭がなければ製糸はできないし、生糸そのままでは人が着る衣服にはならない。そういう意味で、今回、蚕種を貯蔵する施設や近代養蚕農家の模範となった住宅、あるいは最新の養蚕法の伝播に貢献した専門学校などもあわせて世界遺産に登録されたことには大きな意味がある。しかもそれぞれが富岡製糸場と密接にかかわりながら世界の生糸生産をリードした痕跡を丸ごと保存していこうというスタンスは、今後の産業遺産の保存・活用のあり方にとっても示唆を与えることになろう。

残念ながら、現在わが国では、養蚕業も製糸業も風前の灯で、産業としての維持が困難になってきているが、日本に長く根づいた絹の文化をどのように継承していくのか、世界遺産登録がそうしたことを様々な場で議論・検討するきっかけになればと願う。

スペインの世界遺産　コルドバ

五藤　克己（元文化放送記者）

スペインは、ヨーロッパとアフリカ、旧大陸と新大陸の十字路であった、とよく言われます。地政学的にも歴史的にも、スペインの独自性をよく表した表現だと思います。宗教的には、キリスト教とイスラム教との対峙です。様々な文化・文明が融合・発酵し、独自の色合いと味わいと香りを醸し出してきました。

コルドバは、そのスペインの特徴を最も色濃く残している街ではないでしょうか。メスキータ（回教寺院）はその代表です。アンダルシアの強い日射しの元から、薄暗い寺院内に入ると、別世界が拡がっています。大理石とくさび形の赤レンガを組み合わせたアーチが幾重にも重なって、独特の空間を構成しています。かつては 1400 本あったと言われるこの「円柱の森」も、内部にキリスト教会を組み込むために削られて、残されたのは 854 本でした。この工事を認可したカルロス５世も、「世界のどこにもないものの中に、どこにでもあるものを建て込むとはバカなことをしたものだ」と嘆いたと言われます。このメスキータの雰囲気は、どの写真よりもエッシャーの版画が最もよく伝えていると思います。

メスキータ

迷路のように小道・脇道が入り組んだユダヤ人街も、迷いながら歩くには楽しい発見が随所にあって、旅心を満足させる街並みです。白壁に花の小鉢が飾られた「花の小道」は、メスキータの尖塔も納められる写真スポットとして人気があります。

パティオ

コルドバを訪れるなら５月がお薦めです。「パティオ（中庭）祭り」が開催され、市民が丹精を込めたパティオを一般公開し、咲き競う花の小鉢の見事さに、訪れる人達は魅了されます。権威あるコンクールで、優勝の栄冠を獲得した家には、記念プレートが掲げられたりしています。５月に訪れることができない人は、「ピアナ侯爵夫人の宮殿」へ行けば、14 ものさまざまなパティオを見ることができます。

コルドバは、スペイン人自身にとっても、特別な街のようです。スペインの国民的詩人、ガルシア・ロルカは、こう詠っています。

「コルドバよ／黒い仔馬　大きな月／鞍袋にオリーブの実／ぼくは道を知っている／けれどもコルドバには着かないだろう・・・」

編集部注ー（コルドバには ）二大宗教の統治下にあったことにより、両者の文化が色濃く残る建築物が多数残されている。
これはイスラム支配下の時代に、他宗教に対して寛大な措置が取られていたことが強く影響している。
（ 世界遺産大事典 下ー NPO 法人世界遺産アカデミー ）

花の小道